

**製品名: ATP5G2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab07332**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	ATP5G2
別名	ATP5G2; PSEC0033; ATP synthase lipid-binding protein; mitochondrial; ATP synthase proteolipid P2; ATPase protein 9; ATPase subunit c
遺伝子 ID	517.0
SwissProt ID	Q06055
免疫原	抗血清はヒト ATP5G2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

**背景**

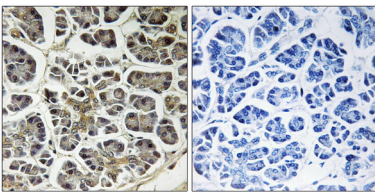
この遺伝子は、ミトコンドリア ATP 合成酵素のサブユニットをコードします。ミトコンドリア ATP 合成酵素は、酸化的リン酸化反応

中に内膜を横切るプロトンの電気化学的勾配を利用して ATP 合成を触媒します。ATP 合成酵素は、2つの連結した多サブユニット複合体、すなわち可溶性触媒コアである F1 と、プロトンチャンネルを構成する膜貫通構成要素である Fo で構成されています。ミトコンドリア ATP 合成酵素の触媒部分は、5つの異なるサブユニット ( $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$ 、 $\delta$ 、 $\epsilon$ ) から構成され、 $\alpha$ サブユニット3個、 $\beta$ サブユニット3個、および $\gamma$ サブユニット、 $\delta$ サブユニット、 $\epsilon$ サブユニットの代表的サブユニット1個という化学量論で組み立てられています。プロトンチャンネルは、おそらく9つのサブユニット ( $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$ サブユニット、 $\delta$ サブユニット、 $\epsilon$ サブユニット) から構成されます。プロトンチャンネルのサブユニット c をコードする3つの別々の遺伝子があり、それらは異なる輸入配列を持つ前駆体を特定しますが、同一ではありません。疾患:このタンパク質は、セロイドリポフスチン症 (バッテン病) に罹患した動物またはヒトの貯蔵体内に貯蔵される主要なタンパク質です。機能:ミトコンドリア膜 ATP 合成酵素 (F(1)F(0) ATP 合成酵素または複合体 V) は、呼吸鎖の電子伝達複合体によって生成される膜を横切るプロトン勾配の存在下で、ADP から ATP を生成します。F 型 ATPase は、膜外触媒コアを含む F(1) と膜プロトンチャンネルを含む F(0) の2つの構造ドメインで構成され、中心茎と周辺茎で連結されています。触媒作用の間、F(1) の触媒ドメインでの ATP 合成は、中心茎サブユニットの回転機構を介してプロトンの移動と結合しています。複合体 F(0) ドメインの一部です。おそらく10個のサブユニットからなるホモマーCリングは、複合回転要素の一部です。その他:ミトコンドリア ATP 合成酵素プロテオリピドをコードする遺伝子は3つあり、それらは異なる輸入配列を持つものの、成熟タンパク質は同一である前駆体を特定します。類似性:ATPase C 鎖ファミリーに属します。サブユニット:F 型 ATPase は、触媒コアである CF(1)と膜プロトンチャンネルである CF(0)の2つの構成要素から構成されています。CF(1)には、 $\alpha(3)$ 、 $\beta(3)$ 、 $\gamma(1)$ 、 $\delta(1)$ 、 $\epsilon(1)$ の5つのサブユニットがあります。CF(0)には、 $\alpha$ 、B、Cの3つの主要サブユニットがあります。、

## 研究分野

酸化リン酸化、アルツハイマー病、パーキンソン病、ハンチントン病、

## 画像データ



ATP5G2 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳臓の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。